

# 神奈川県道40号線（通称：厚木街道）の歴史

2022年11月 西沢 昭

## 1. はじめに

一般的に街道の名前というものは、目的地を示す名称で呼ばれることが多い。神奈川宿から厚木に向かう道であれば厚木道であるし、反対に厚木から神奈川宿に向かう道であれば神奈川道と呼ばれている。神奈川宿から厚木は武蔵から相模に向かう道であるので、相州道とも呼ばれ、道路の特定には多数の混乱を招いている。現在でもたんに厚木街道と呼んでも、県道40号線を指す場合もあるし、国道246号線（矢倉沢往還・大山街道）のときもある。

本研究では、横浜市内から海老名市に向かう県道40号線（通称：厚木街道）の近代の歴史をたどる。

## 2. 江戸時代の厚木街道

江戸時代の厚木街道は、横浜市教育委員会から刊行された「横浜の古道<sup>1)</sup>」では、横浜市内の相州道（厚木街道）として記載されている。綾瀬市史研究11号<sup>2)</sup>には大和市、綾瀬市内の相州道（厚木街道）が記載されている。このように、厚木街道と呼ばれる一連の研究誌が発行されている。

また厚木街道の名称としては、江戸時代の終わりに歌川広重が描いた「東海道細見図会・神奈川」<sup>3)</sup>に記載されている。図会の上部に小さな字で「相州大山道あつぎかい道追分」とあり、江戸時代に厚木街道が存在していたことが分かる。文章からすると、大山道と厚木街道は同一街道であったとも考えられる。



図1： 江戸時代の厚木街道

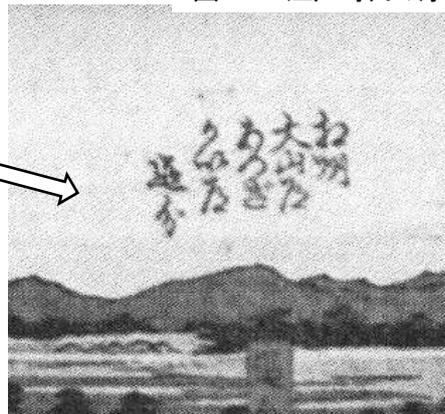


図2：東海道五十三次細見図会 神奈川 初代歌川広重 (国会図書館蔵)

各研究での厚木街道において最も異なっている経路は横浜市瀬谷区南台交差点から大和市内までの道である。横浜市教育委員会は瀬谷駅南の鷹見塚の西方と、深見神社の北にある庚申塔を根拠に、相州道は瀬谷駅前を通っていたと記述しているが、確信がなく推定線として破線でその位置を示している。推定線である理由として、明治初期の迅速地図にはその付近には道路がなく、江戸時代にあった道路が明治時代に急に消滅すること自体に疑問があるためと考えられる。綾瀬市史研究11号においても江戸時代の道が明治時代に急に消滅することは考え

にくく、瀬谷駅近くと深見神社近くの庚申塔を街道の比定に利用することに疑問を投げかけている。

一方、文政7年瀬谷村絵図<sup>4)</sup>には瀬谷区内の宝蔵寺と西福寺の間に街道が1本描かれているが、街道名は記載されていない。しかし、深見村まで続いているので、相州道（厚木街道）のように見える。

本研究では、海老名から横浜市瀬谷区までは綾瀬市史研究大久保氏の道、横浜市瀬谷区から横浜市保土ヶ谷区までは横浜市教育委員会の道を厚木街道と考えておく。

### 3. 明治・大正時代の様子

明治時代にまとめられた皇国地誌で該当する厚木街道部分を見ても、厚木街道という名は存在しなく、神奈川道となっている。これより、厚木街道という名称はいったん消滅したようである。そして近代の区切りとなったのは、1920（大正9）年4月1日の官報記載、府県道制定である。日本国内の主要道路を府県道と決め産業発展に寄与させることが狙いと考えられる。この法律により「横浜厚木線」が誕生した。

どの経路で制定されたかは官報に記載はないが、「横浜市から愛甲郡厚木町」となっており、「都筑郡二俣川村、鎌倉郡瀬谷村、高座郡大和村、渋谷村、海老名村」を通ることと記されている。具体的にどこを通過していたかは史料が見つからなく、昭和の時代となってからの官庁の地図で明らかとなる。

### 4. 昭和の厚木街道

昭和の時代、厚木街道は大きく変化する。変化の原因として、昭和初期の不況、後藤新平の遺産問題、海軍の飛行場建設、海軍工廠の建設があげられる。これらを順に説明をし、このような仮説を立てた原因として、連光寺柿生停車場線の県道昇格問題と相模原戦車道建設問題も説明をする。

#### (1) 昭和初期の不況と厚木街道

昭和初期、改修工事以前の厚木街道は例えば1934（昭和9）年発行の20万分の1地図で確認することができる（図3に示す）。保土ヶ谷から出た厚木街道は今井道を通り二俣川へ、その後は神中線に沿って西に向かい、綾瀬村の望地で大山街道（矢倉沢往還）に合流している。



図3：1934（昭和9）年発行20万分1地図（部分：神奈川県公文書館蔵）破線は筆者記入の厚木街道

#### (2) 後藤新平の遺産問題

台湾総督府顧問、逓信大臣、東京市長などを務めた後藤新平は、晩年東洋の文化を発信するための大学府の創設を夢み、昭和2年頃高座郡綾瀬村に約30万坪（約1Km<sup>2</sup>）の敷地を購入した。しかし実現の前に後藤氏は死去してしまう。その後この土地は海軍の手に渡り、厚木基地の一部となった<sup>5)</sup>。

海軍の手に渡ったのがいつか、海軍はこの土地を飛行場建設の足掛かりにしようとしたかどうかは不明であるが、当時の新聞には昭和9、10年頃に海軍の飛行場誘致が相模台地のあちこちで行われており、後藤新平の土地を手に入れた海軍が、この時期この付近に、航空基地建設を計画していたことは十分うかがえる。

### (3) 厚木街道の改修工事

1932（昭和7）年厚木街道は突如、厚木街道の直線化工事が始まる<sup>6)</sup>。県の決済願いによると、昭和恐慌冷めやらぬ当時の失業者対策のための工事であった。工事の効果として今後訪れる自動車社会の効率化が記載されている。この事業は果たして自動車社会を想定しての工事であったのだろうか。厚木街道の当時の交通量のデータは見つからないが、中原街道で現在の川崎市中原区役所付近での昭和8年交通量調査資料<sup>7)</sup>があり、自動車が1日220台程度、最大で貨物自動車が1時間10台ほどである。当時の自動車普及の状態から考えると、工業地帯から遠く離れた二俣川あたりの交通量はさらに少ないと考えられる。車社会を考えての事業だったのだろうか？

神奈川県公文書館の資料によると、昭和7、8、9年の3か年で、大和村から二ツ橋交差点にいたる厚木街道は、不要な屈曲部を整備し、直線の多い街道に整備された。この時、現在の二ツ橋交差点から中原街道の南台交差点にいたる直線道路が新設された。そして昭和11年には二俣川駅前から山を登り、旭区中尾、つくの、笹野台、瀬谷区三ツ境、二ツ橋と通っていた厚木街道は、現在のように二俣川駅から現在の相鉄線沿いに谷戸の平地を通り希望ヶ丘駅近く、そして山を登り、三ツ境、二ツ橋と通る、踏切のない現在の経路に変更された。

この時の工事予定の地図を図4に載せる。この地図は1935（昭和10）年の経路変更のあとの様子も反映しているので、二俣川から鶴ヶ峰に道路は伸びている。



図4：1935（昭和11）年厚木街道改修工事結果の図面（神奈川県公文書館蔵）

その前年、1935（昭和10）年には、神奈川県議会で今まで通っていた厚木街道の二俣川以東の経路の変更提案がされた。これには当時の地域住民の反対を受けたことが、抗議文章として公文書館に残っている。この文章により、旧厚木街道は二俣川駅から現在の今井道を通り、保土ヶ谷元町につながっていたことが分かる（図3参照）。抗議文章に添付されていた道路地図を図5に載せる。

そして昭和11年正式に、この今井道に変わり現在の二俣川駅前から鶴ヶ峰で国道16号線に接続されるように経路変更が行われた。その結果、この5年間で厚木街道は直線部分が多く、踏切も減り、国道16号線と接続される現在の道路に変更された。図6にはその当時の県の管理道路図面を載せる。6という番号の振ってある道が新しい厚木街道で、旧厚木街道は消去された。

ここに記述した一連の道路改修計画は当時の時代を俯瞰することによりある仮説が浮かび上がってくる。その仮説とは、軍部は目標とする地域の軍事化に対して、できるだけ世論を味方につけ、軍部の予算を使用せずに、行政の予算を使用することにより、計画の目標を達成させようという姿である。軍の予算はあくまで、軍備増強のために使用するという、根本原則があるのではないだろうかという仮説が生まれる。次はその仮説、軍事道路建設は地方自治体に積極的に推進してもらおうという状況証拠について記述する。

### (4) 軍事道路化（その1）

「瀬谷区の歴史」<sup>8)</sup>生活資料編二 365 頁には平本七郎日記が残っていて、当時の村の様子を知ることができる。この日記の一部を転記する。

昭和10年1月20日「五時頃より村長氏宅に於いて村内航空発着所問題につき小島氏と会見す」

昭和10年12月18日「航空船問題につき村内の協議会を開き先方の係員南少佐の内容説明を聞く」。

この昭和10年の日記からは、上瀬谷付近の土地に飛行場計画が持ち上がった。そして裏には軍がいることがわかる。この飛行場計画はその後延々と昭和14年まで続く。そしてこのことと相前後して、厚木街道改修と工場進出の話が出てくる。その結果、厚木道路は県予算で立派になり、飛行場計画は、軍の資材集結所となってしまった。

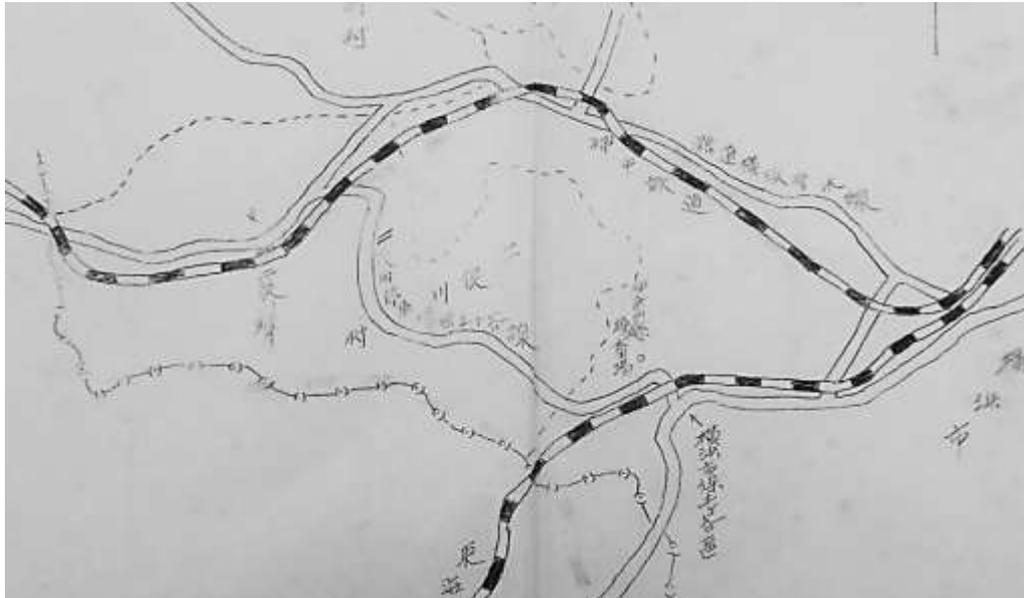


図5：抗議文添付の地図（神奈川県公文書館蔵）



図6：1936（昭和11）年発行神奈川県管内図・部分（神奈川県公文書館蔵）

### （5） 軍事道路化（その2）

瀬谷区から少し離れたところ、川崎市麻生区の史料である。川崎市麻生区付近の道路改修の計画が公文書館に存在した<sup>9)</sup>。写真を図7に載せる。

概略を記すと、連光寺柿生線は軍事上の重要道路であるが、東京神奈川県境でもあるので道が悪く、戦車も通れない。至急改修するよというものである。いろいろ理由を付けているが、つまり戦車が通ることができるように県境の道を広げてほしいというものである。工事を確かなものとするように、地元村長、名所の管理人、議員などの連名があり、まとめ役は陸軍大佐。提出は1934（昭和9）年10月である。

さらに、11月8日には、「神奈川貿易新報」に村民が道路清掃をしたので、そのお礼として、今度府県道に昇格するという記事が掲載されている。道路清掃により、一般道が府県道となっている。そして翌年の神奈川県議会で、府県道への昇格が承認されている。当然道路改修は実行された。

この一連の流れは、軍事上必要な道路は、軍が住民を巻き込み行政に圧力をかけ、軍の予算を使わずに実現させるという一連の流れが見えてくる。

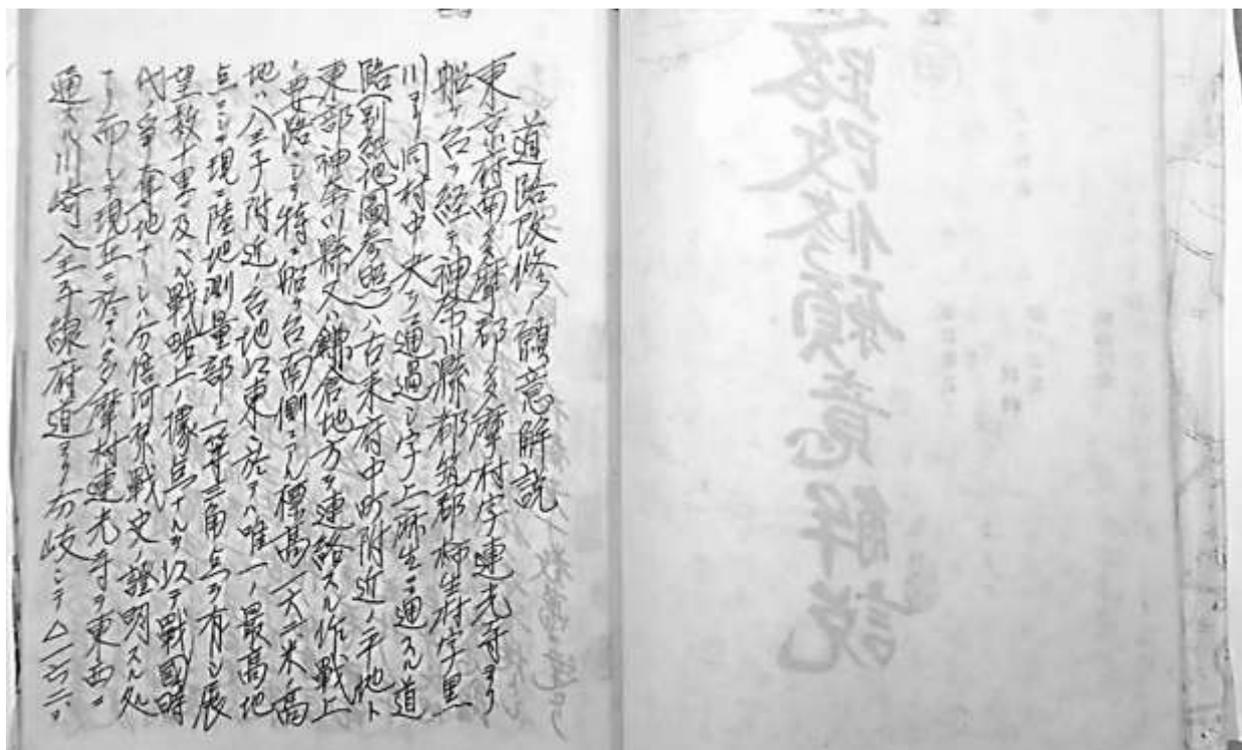


図7 道路改修請願書（神奈川県公文書館蔵）

### (6) 軍事道路化（その3）

川崎市麻生区の事例を基に考えると、この時代に行われた厚木街道の整備も、先々この周辺に重要な軍事施設を設置するための準備段階であることが想定される。

改めて当時の厚木街道の改修工事書類を見てみると、改修工事による効果の項に興味深い文章が書かれている。「横浜市ヨリ厚木町へ通スル最短距離ノ路線ニテ、昭和七年度・・・8341米改修済。・・・七年度以来ノ路線ト全部連絡シ殆ンド直線ニシテ横浜厚木間ハ自動車ニテ約30分間時間短縮シ得・・・」とある。厚木方面から順に道路の直線化を行い、最後の部分については厚木街道を大きく移動させ、踏切を避け起伏の少ない新しい場所を通過することとなっている。軍と飛行場、物資輸送、工場誘致から工場へ発展させる、軍部の中期計画が垣間見えるようである。前述の川崎・中原町役場前の交通量調査結果を考えると、当時の厚木街道の交通量は1時間当たり自動車数台のレベルと考えられる。このような中、将来の自動車社会の想定や、できるだけ短時間に主要地点を結ぶ必要性についての重要性は軍事以外見つかからない。つまり1940年代を想定した、大規模軍事基地計画が進んでいたと考えたくなるような状況証拠である。

## 4 戦前の厚木街道の役割

このように厚木街道は、昭和初期の道路整備という準備を行いながらやがて一大軍事地区を担う道路に変化していったところが見て取れる。海軍への飛行場誘致合戦と、瀬谷の飛行船発着場の話が1935（昭和10）年頃であり、大和市に海軍飛行場の話が出たのは1940（昭和15）年頃。これらは最終形の大和市軍都市計画につながる。そして、大和市軍都市計画は1943（昭和18）年から1960（昭和35）年までの長期間にわたって実施され完成する予定であった<sup>10)</sup>。また前述したように、後藤新平が1927（昭和2）年、明倫大学を綾瀬町に建設しようと30万坪の土地を買収し準備していたところ、後藤が死去し（昭和4年）その後、海軍にわたり厚木飛行場構想の土台となったようである。

歴史の流れからみると、軍部の長期計画に基づき、相模野大地に一大軍事基地を建設することで、首都圏を守りながらの軍事増強ができることを考えていたことがわかる。陸軍は、鶴ヶ峰から相模原にかけて昭和15年から相模原軍需工場の建設と呼応し、相模原で製造した戦車を横浜港に運ぶための戦車運搬道の整備（直線化・舗

装化)が県の予算で行われている<sup>11)</sup>。府県道横浜中野線の改修工事である。昭和20年7月に米軍が撮影した上瀬谷補給廠の分析資料を見ると、「Highway from OGAYATO to KAMI-SEYA・・・」と表記されている。筆者は初め、直線道路のためこのような表記となったと思っていたが、県公文書館資料からは昭和17年舗装化の計画がなされており、舗装された直線道路、つまりハイウエーであることが理解できた。

海軍では昭和18年頃には、現在の県道40号線は厚木飛行場への軍事輸送路であり、鶴ヶ峰からは国道16号線に合流し、横浜港や横須賀海軍基地までを結ぶ軍需運搬道となった。

## 5 まとめ

横浜市西部の厚木街道を巡る地域史をまとめた。明治以降養蚕業関係で発展を遂げたが、関東大震災以降、神中鉄道の開通と、厚木街道の軍事利用計画により、道路は踏切が少なく、直線化が行われた。戦後復興は直線化された厚木街道により、自動車社会にも対応でき、地域の発展に大いに寄与した。

## 参考文献

- 1) 横浜の古道 横浜教育委員会編(平成8年)
- 2) 綾瀬市史研究(第11号)綾瀬市教育委員会編(平成22年)
- 3) 東海道細見図会 国会図書館デジタル資料
- 4) 瀬谷村絵図(守屋家文書296)
- 5) 後藤新平大全 御厨貴著 朝倉書店(2007)70頁
- 6) 資料名「昭和10年失業応急府県道横浜厚木線道路改良工事設計変更関係」等 神奈川県公文書館蔵
- 7) 中原町誌 中原青年団発行(昭和8年)
- 8) 瀬谷区の歴史(生活資料編二) 瀬谷区の歴史を知る会編(昭和54年)
- 9) 資料名「昭和11年神奈川府中線愛甲石田停車場酒井線路線認定関係」等 神奈川県公文書館蔵
- 10) 大和市史3 通史・近現代 524頁
- 11) 相模原市史近代資料編 532 府県道横浜中野線外一路線道路改良について
- 12) U. S. CONFIDENTIAL 20 July 1945 国会図書館蔵